

校長室だより
NO. 43
平成30年12月17日

すべては光る

梅園小学校長
たか すりょうへい
高 須 亮 平

第2回学校評議員会を開催しました

本年度第2回学校評議員会を12月11日（火）に開催しました。これは、学校の教育方針や実際の経営状況、子どもの様子等について、第三者（学区・保護者の代表者）から意見を幅広く聞き、学校経営方針等を振り返り、よりよくしていくためのものです。本年度の学校評議員は、次の方々です。

鈴木 義明 様（学区総代会長） 本多 孝美 様（学区社教委員長）
大山 恵子 様（学区主任児童委員） 植田 晃圭 様（PTA会長）
山本 由美 様（PTA副会長）

まず、私が2学期の方針、行事面・学習面・生活面で学校の状況等を簡単に説明させていただきました。その後、委員の皆さんから経営方針や子どもたちの様子についてご質問、ご意見をいただきました。その主な内容は次の通りです。○はご意見・ご質問、➤は回答です。



真剣に議論する評議員さん

【置き勉について】

- 話題になっている「置き勉」について、何か問題点があるか。月曜日の持ち物が多いので、上靴も含めて検討してもらえるとよい。
 - 子どもの持ち物について、負担は減らす方向で検討していきます。実際に教材等は学校に置いてあるものもあります。上靴は週に1度ではなく、その期間を広げるよに検討します。しかし、このような習慣は本校のよいことですので、状況を見ながら判断していきます。

【iPadについて】

- iPadの話をよく聞くが、よく活用されているのか。
- 消防署の見学に付き添いで行ったが、子どもたちは写真なども撮りながら結構うまく使っていてびっくりした。
 - どの学級でもよく活用し徐々に広がっています。低学年や特別支援学級の子どもたちは、iPadを使うと、とても興味を持って授業に集中しています。また、例えば、算数科の教科書をiPadで映せば、図や絵が動いたり、平面の図形が立体的に浮き出るようなアプリがあり、その活用を始めているところです。

【ふわふわ言葉について】

- 子どもたちのふわふわ言葉は広がっているが、先生たちの言葉遣いが気になる。例えば、朝、子どもが遅れてくると、先生が「遅いじゃないか」と頭ごなしに言うことがある。そのときには「遅いよ。どうしたの?」と聞いてほしい。先生たちがふわふわ言葉を使う手本になってほしい。
 - 率直なご意見に感謝します。先生の方もそれなりの理由はあったと思いますが、子どもの理由を聞かずに頭ごなしに言うのはよくないと思います。先生たちにはよく伝えて、きちんとした対応ができるように注意します。

【インフルエンザについて】

- 学級閉鎖になると、インフルエンザにかかっていない子どもも登校しなくてよくなるのか？学級閉鎖をするとインフルエンザは収束するのか。
 - 学級閉鎖はあくまでも接触を避けることで感染の広がりを防ぐことがねらいです。学級閉鎖はインフルエンザにかかっていない子どもも登校していません。
- インフルエンザで早帰りした子どもや学級閉鎖になった子どもが、暇だからといって、家の人がイオンなどに連れて行くことを聞いたが、学校ではどう指導しているか。
 - 学校では、できるだけ外に出ることは控えるように指導しています。これは、ご家庭の協力をお願いしたいところです。この時期に人の集まる場所へ行けば、感染する可能性は高くなります。だから、学校では体育館での集会は避けています。

【学芸会について】

- 今年の学芸会は何を行っていたか、よく分かってよかったと思う。題材もよかったと思う。
 - これは、担任の先生たちの努力の成果です。実際に指導する立場になると、たいへんなエネルギーがかかります。しかし、そのエネルギーは子どもの成長につながっていきます。ご家庭の協力には感謝しています。

【マラソン大会について】

- アナウンスでは、学年の紹介はあったが、途中で見に来た人が何年生が走っているのか分からないので、スタートのところに、学年を表す看板がほしい。マイクが届かないところもある。
 - 看板を作るかどうかは検討します。その前に放送で聞こえるかどうかを確認します。準備や片付けとして、できるだけ簡潔にできるように、行事の見直しをしているところです。
- 他の保護者からマラソン大会では順位をつける必要はあるのかということ聞いたが、どのように考えているか。
 - ご意見や考え方はいろいろあります。「走ることに意味があるので順位はいらない」「遅い子どもでも順位を目標にがんばっている」等々です。本校は、この3年間で体力的には全国平均以下から上位3割に入るようになりました。その理由について、子どもたちの「目標を持っているから」と答える割合が、本校は全国平均より10～20ポイントも高くなっています。そのような目標を持つことから順位を付けることが有効であると考えています。
- 順位を付けた方がモチベーションが高まり、自分の目標を立てるためには順位は必要と思う。プレッシャーを感じることもあるが、小学生のうちに経験させることが大切であると思う。
- マラソンが苦手でも、他の競技では得意な子もいる。人は、それぞれ得意な分野もあれば、苦手な分野もある。だから、そのことが分かっているといいので、順位をつけるのはいいと思う。



マラソン大会(6年女子)

今回は、評議員さんが2学期の多くの学校行事に参加いただいたり、多くの方々からの意見を聞いていただいたりしたのも、実際に子どもとふれあう中から気付かれたものなどが出され、学校運営を考えていく上で、多面的な議論ができたと思います。特に、先生の言葉遣いがよくないというご意見は、学校側の反省点であります。このようなご意見を真摯に受け止め、子どもの成長を願い、さらなる改善に努めていきたいと考えています。